

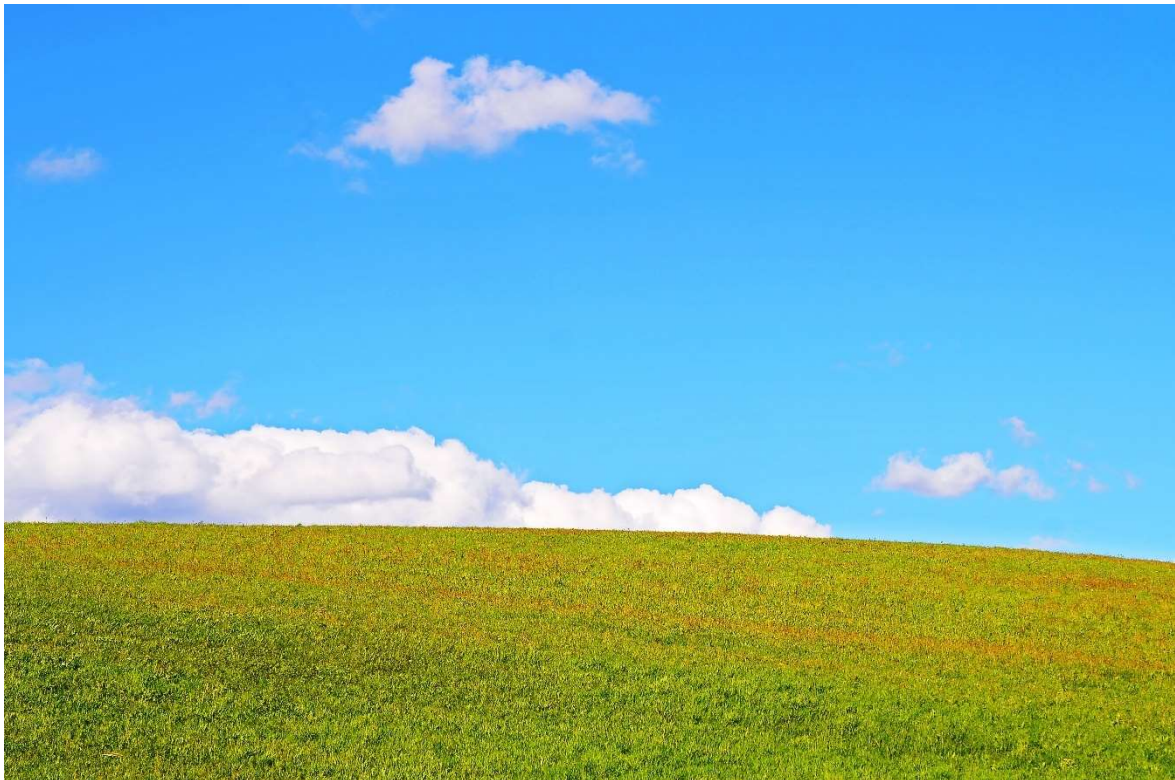


エコアクション21[®]
認証番号 0004712

エコアクション21

2022年度環境活動レポート

(対象期間 2022年4月～2023年3月)



 山田化成株式会社
YAMADA KASEI COMPANY,LTD.,

発行日:2023年6月1日

URL:<http://www.yamada-kasei.co.jp>

1. 会社の概要

(1) 名称

山田化成株式会社 (YAMADA KASEI COMPANY, LTD.)

(2) 代表者

代表取締役社長 山田善大

(3) 所在地

[本社] 東京都千代田区内神田2丁目8番4号

[大阪支店] 大阪市西区西本町1丁目14番18号

[東北営業所] 山形県米沢市中田町1229-1

(4) 認証・登録範囲

[対象事業所] 本社、大阪支店、東北営業所

[対象活動] 工業薬品、精密化学品、合成樹脂、染料・顔料・繊維加工剤
樹脂製品、機械・設備、その他の仕入販売

(5) 資本金 5,000 万円

(6) 主たる事業の内容

当社は創業 100 年を超える化学品専門商社として、国内外の幅広いお客様へニーズに合った最適な商品を提供しております。

工業薬品、医薬品、試薬、農薬、染料、顔料、塗料、樹脂、その他化学製品及び加工品の売買並びに輸出入

(7) 大株主 山田善大、三菱ガス化学株

(8) 事業の規模

項目	単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度
売上高	百万	8,017	9,851	10,084
従業員数	全社	41	44	46
	本社	24	27	26
	大阪支店	14	15	17
	東北営業所	3	2	3
建物床面積	全社	1,018	1,018	1,018
	本社	331	331	331
	大阪支店	190	190	190
	東北営業所	497	497	497

(9) 環境管理体制

環境管理責任者 常務取締役 亀山 充史

環境管理事務局長 営業部 部長代理 富澤 一雄

2. 環境方針

山田化成(株)は、すべての事業活動に伴い発生・消費する環境負荷を低減する為に、次の方針に基づき環境経営活動を推進して地球環境との調和を目指します。

- ・ 社内の環境を常に意識し、自主的・積極的に環境への取り組みを進め、継続的に環境負荷の低減を図ります。
- ・ 事業活動に適用される環境関連法規及びその他の要求事項を正しく理解し遵守します。
- ・ 環境への負荷の低減の為に、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
- (2) 電力使用量の削減
- (3) 化石燃料、水資源の使用量の削減ないし効率的な使用
- (4) コピー用紙の使用量削減等、廃棄物の削減
- (5) オフグレード品・リサイクル品の販売強化

以上、一人一人が、環境負荷低減活動に積極的に取り組み行動出来るように、この環境方針を全社員に周知すると共に環境レポートを社外へも公表します。

上記方針達成の為に、目標を設定し定期的に見直す事により、環境経営システムを効果的に運用し、企業としての環境への社会的責任を果たします。

制定日 2009年4月1日

改訂日 2018年4月1日

山田化成株式会社
代表取締役社長 山田 善大

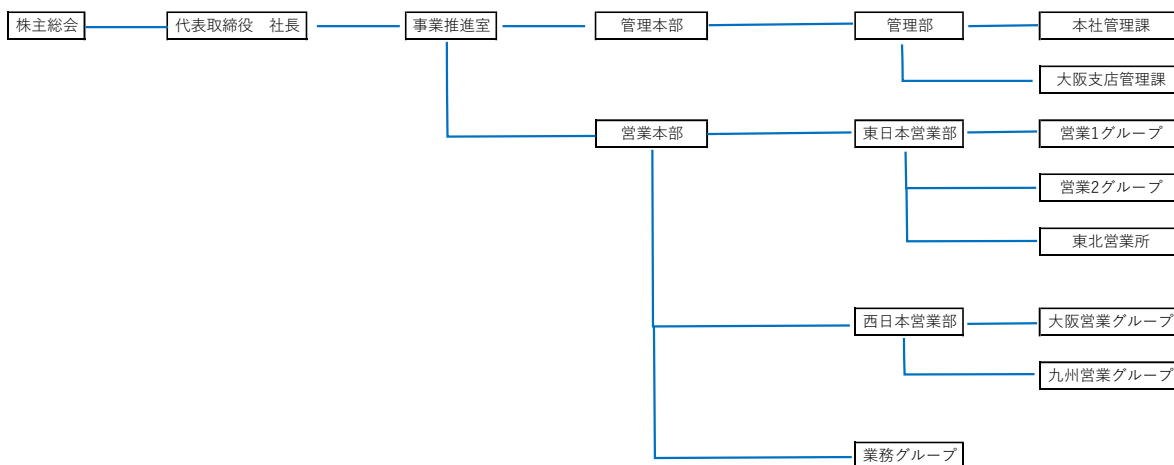
3. 実施体制

2023年4月1日

《 実施体制 》

代表者（社長） 山田善大	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する総括責任 環境経営システムの実施に向けた効果的で必要十分な体制を構築 環境経営システムを運用・維持するための経営資源の用意 環境管理責任者の任命 環境経営方針の策定・見直し 各自の役割、責任及び権限の設定と全従業員への周知 環境経営目標・環境経営計画の承認 代表者による全体の評価と見直しの実施 経営における課題とチャンスの整理と明確化 環境活動レポートの承認
環境管理責任者 亀山充史	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築・実施・管理 環境関連法規等の取りまとめ表の承認 環境経営目標・環境経営計画表の確認 環境活動の取組み結果を代表者に対し報告 環境活動レポートの確認
環境管理事務局長 富澤	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書の原案作成、環境活動の実績集計 環境関連法規等の取りまとめ表の作成 環境関連法規等の取りまとめ表に基づく順守評価の実施 環境活動の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成・公開（事務所内での備付と地域事務局への送付）
部門長 富澤（本社・兼務） 伊藤（大阪） 樋口（東北）	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応手順書作成・テスト訓練の実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施

山田化成（株） 全社組織図



4. 環境目標

(1) 過年度の実績

項目	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
CO2 排出量	Kg-CO2	56,101	48,551	31,047	32,772	29,958
電力使用量	Kwh	92,242	84,229	58,305	62,830	55,010
ガソリン使用量	ℓ	3,241	1,411	837	757	826
灯油使用量	ℓ	108	234	162	180	108
ガス使用量	m ³	64	46	16	13	17
水使用量	m ³	590	561	235	183	251
コピー紙使用	千枚	357	323	170	188.5	209.5
グリーン購入	%	41.6	66.0	36.5	60.1	62.4
再生材料販売	千円	273,169	169,281	—	—	—
	Kg			1,201,951	959,834	951,370

2022年度の排出係数は本社（東京）0.441、大阪0.334、東北0.521とした。

再生材販売は2020年度より数量管理に変更した。

(2) 2023年度の環境目標と実績

- ・2022年度実績を基準年とし、2023年度以降、各年度ともに2%程度の改善を目標とする。

項目	単位	2022年 単年目標	2022年度 実績 (基準)	2023年 目標	2024年 中期目標
CO2 排出量	Kg-CO2	31,000	29,959	29,248	28,600
電力使用量	Kwh	61,700	55,010	53,830	52,700
	基準比			97.8	95.8
ガソリン燃費	Km/ℓ	21.0	19.7	21.0	21.0
	基準比			106.6	106.6
灯油使用量	ℓ	180	108	72	72
	基準比			66.7	66.7
ガス使用量	m ³	数値監視	17	数値監視	数値監視
水使用量	m ³	数値監視	251	数値監視	数値監視

項目	単位	2022年 単年目標	2022年度 実績 (基準)	2023年 目標	2024年 中期目標
コピー紙使用	枚	180,500	209,500	203,500	200,000
	基準比			97.1	95.5
グリーン購入	購入比率	70.0	62.4	70.0	70.0
	基準比			112.2	112.21
再生材料販売	Kg	1,061,150	951,370	924,837	955,000
	基準比			97.2	100.38

- ・ 2023年度の目標は前年目標比2%の改善を軸に設定した。
- ・ 2022年度実績及び2023年度以降目標におけるCO2排出量は、購入電力の排出係数を東京を0.441(kg-CO2/Kwh)、大阪0.334(kg-CO2/Kwh)、東北0.521(kg-CO2/Kwh)とする。
- ・ 再生材料販売の2015年より単年目標は販売予算ベースとし、以後毎年2%増を目標とする。

5. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

項目	活動計画	結果と評価	評価	次年度の取組
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値目標 ・ 退社時のコピー電源 OFF ・ クールビズ[®]の継続 ・ 空調機稼働時間の徹底 	数値目標達成。 前年度はコロナからの復興活動で大幅に増えたが、当該年度はLED照明への交換効果もあり、前々年度を更に下回った。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 注意喚起ポスターの掲示 ・ エアコン温度管理担当による管理を継続する。 ・ タイマー機能の活用。 ・ エアコン交換
ガソリン燃費向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃費を把握する 	前年実績よりは改善したが、目標は未達。		安全エコ運転は徹底を踏襲する
灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値目標 ・ 温度管理の強化 ・ 器具の清掃・点検の強化 	前年消費量よりも下回り、目標も達成。		節約を奨励するものではなく、数値監視を継続することで無駄をなくすことを心がける。

項目	活動計画	結果と評価	評価	次年度の取組
ガス使用量の削減	・使用量の監視継続	前年（13 m ³ ）より多い17 m ³ の実績。湯沸しのため のガス使用が増えた。		数値監視を継続
水使用量の削減	・使用量の監視継続	前年（147 m ³ ）より多い 212 m ³ の実績。本社での 使用量増加が大きい。		数値監視を継続
コピー紙使用量の削減	・数値目標 ・必要枚数の確認 ・紙での配布資料の削減 ・両面コピーの推進 ・プロジェクターの活用	前年（188,500枚）及び 目標（180,500枚）を大 きく超過する209,500枚 の実績。コロナ禍からの 復旧で通常が戻り枚数 増加。しかしコロナ禍前 の数字323,000枚よりは 削減出来ている。		・両面印刷、分割印刷の浸 透を推進する。 ・手元資料の印刷には裏紙 を使用する等の啓蒙活動。 ・不要な印刷物の排除
グリーン調達 の推進	・数値目標を、事務消耗品 購入代金に占めるグリーン 商品の比率とした。 ・グリーン対象商品の優先 的購入	目標達成ならずも、徐々 に目標値（70%）に近づ いている。		・引き続き70%目標を設定 ・事務消耗品を購入・申し 込み時の指差し確認
リサイクル材料の 拡販	・数値目標 ・再生樹脂・オフグレード 品の拡販	わずかに目標達成なら ず。社会の環境意識の高 まりを受け、成果につな がる素地は出来つつあ る。		営業予算も加味した目標 数字を設定し、顧客には社 内の要請を啓蒙しながら、 達成を目指す

■ 次年度の事業所別目標数値

項目	単位	2022年度	2023年度			
		基準年	全社計	本社	大阪支店	東北営業所
CO2排出量	Kg-CO2	29,958	29,248	13,195	2,615	13,438
電力使用量	Kwh	55,010	53,830	29,850	7,830	16,150
GS燃費向上	Km/ℓ	19.7	21.0	—	—	21.0
灯油使用量	ℓ	108	72	—	—	72
ガス使用量	m ³	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視
水使用量	m ³	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視	数値監視
コピー紙使用	千枚	209.5	203,500	121,000	47,000	35,500
グリーン調達	%	購入金額 x 62.4%	購入金額 x 70.0%	購入金額 x 70.0	購入金額 x 70.0	購入金額 x 70.0
再生材料販売	kg	951,370	924,837	621,081	303,756	—

- ・グリーン調達は今までの活動実績を踏まえ、70%を現実的な目標設定とする。
- ・ガス及び、水（水道水）は使用量が少なく環境への負荷が小さいので数量監視のみ継続し数値目標の設定はしない。
- ・ガソリンは主に営業車で使用のため、使用量を把握しつつ、燃費を管理する。

6. 当社事業に係わる主な環境関連法規

分野	主な法令等の名称	適用対象となる事項
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物、産業廃棄物
	フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検
防災	消防法	危険物の保管・管理
		消火器の管理
化学物質	特定の化学物質の環境への把握及び管理の改善の促進に関する法律	SDSの提供（取次）
	毒物及び劇物取締役法	営業の登録・更新 毒劇物の保管・管理 取扱い責任者

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間なく、現在係争中の訴訟等もありません

7. 代表者による全体の評価と見直し

エコアクション21の活動を開始以来12年が経過致しました。その間に継続してきた取り組みはもはや「習慣」と呼べるまでに定着し、着実に成果を上げて参りました。数値化あるいは可視化することの重要性を実感しております。しかしながら、数年前に見られた大幅な目標達成には、コロナ感染拡大に伴う在宅勤務の実施や大阪支店の移転の効果があったことも事実であり、昨年度の実績を見返すと、それらの効果が一巡したこともあり、未達成項目が散見されます。事務所電灯のLED化により電力消費量の削減については一定の成果が見られましたが、コピー用紙使用量、等の主要項目については達成することが出来ませんでした。各人の意識面、活動面でも多々見直しが必要と感じております。

社員40名程度の小規模商社がもたらす環境負荷低減は微々たるものであり、とすれば日々の活動において優先順位が下がりがちです。また、取り組みそのものに対する慣れや惰性の側面も否めません。今までの取り組み（電力の削減、コピー紙の削減、営業車の燃費改善、備品としてのグリーン対象品の購入促進等）にも改善の余地が狭まっております。さらには、再生品を含めた環境商材の販売に注力したいところではありますが、市場や価格市況に左右されるため本活動の核とするには弱い実態を自覚せざるを得ません。しかしながら、企業活動において環境問題への取り組みは避けて通れないものであり、幸いにお客様の中でも徐々に環境商材への関心が高まりつつありますので、その機運に乗りニーズを先取りする形で提案営業を推進して参ります。実績が出始めれば事業としてはもちろん、省エネルギー及び省資源につながる活動を常に意識し続けることで、環境活動の効果は表れるものと確信しています。舵取りが難しい環境にはありますが、経営トップが範を示すことで環境活動を啓蒙していく所存です。

2020年度からは新ガイドラインに則り、その方針策定と周知徹底に力を入れ始めました。継続性を念頭に置き、営業活動と一体となって運用出来る様に永続的に取り組んで参ります。2023度においては、主要の電気使用量とコピー紙の消費は従前の管理手法を踏襲し、未達成であったグリーン購入については購買担当者のチェック確認作業を徹底することで目標達成を図って参ります。

2023年6月1日
代表取締役社長
山田 善大